



札幌聖心で育った茂仁香の皆様へ、

皆様の母校は2025年3月で閉校することになりましたが、皆様は大きな聖心家族の一員であることは変わりません。"Once a Sacred Heart girl, always a Sacred Heart girl!"

ネット上に札幌聖心のアーカイブと出会いの場を作りたいと願っています。そして、25年3月前には、Homecoming Day で懐かしい皆様にお会いしたいと願っています。今は天国に住まいを移したシスターたちや先生方と共に、皆様の上に祝福と希望を願って祈る日々です。

「どうぞあなたが  
神さまがあなたに与えた、すべての賜物を自分のうちに成長させ、  
その賜物によって、あなたの周りの人々に喜びをくばる人となられますように。  
また、あなたが悲しむときに、  
日々の生活のなかで嵐にであったときに、  
いつもそばで助けてくれる真の友と、  
共におられる神を見出されますように！」 (「アイルランドの祝福」より)

お会いできる日を楽しみに、祈りのうちに

2021年11月5日

田口保子

9月に初期の癌の手術を受けられた折は、母の会、白樺会と共に、茂仁香会の有志の皆様が時刻を合わせてお祈りくださったと13回生からうかがい、びっくり、深く感謝申し上げます。今は放射線治療中ですが、勤務に戻り、一日一日の恵みを大切に味わいながら、未来を切り拓く準備をする生徒たちと共に過ごせることに感謝しています。

## 今月の聖句

# 闇の中を歩む民は、光を見た。

イザヤ書 9章 1節

クリスマスに生徒たちが英語で暗唱するイザヤの預言のこの一節は、遠い昔の出来事ではなかったと感じる今日この頃です。

「起こる出来事をどのように受け取るかで人生が変わってきます。」と常々言っている私ですが、閉校にいたる理由は、頭ではよくわかっているが、心が「なぜ！」と叫ぶ思いの中で、先日の発表を迎えました。

その後、保護者、卒業生、そのご家族の皆様からメールやお便りをいただきました。どのお言葉にも、私を導く光がともっていました。ある生徒のお母様からは、虹の写真が届きました。「保護者会の間に、『札幌での学びを生かし、世界に開かれた窓からよくよく見渡してご覧下さい。こんなにも可能性に満ち溢れている』と声が聞こえました。窓の方を見ると、外には綺麗な虹が掛かっておりました。学校の歴史が終わりましても『札幌聖心で生まれたたたくさんのご縁と学びは永遠に滅びることはないのだ』とはっきりと声を聞いたのです。親子共々学びを深め、世界中に愛を届けることができるよう邁進していきたいと思えます。」写真を眺め、大事な一人ひとりの生徒の未来には必ず希望の虹がかかっていると確信しました。

ある卒業生のお母さまは、前に進めるようにと激励で歩みを照らしてくださいました。

「札幌聖心が使命を終えることを知り、私もショックで呼吸が上手く出来ないほどです。でも、私はまず感謝します。素晴らしい学校や人々と出会えたことに。悲しむより感謝します。幸せを感じていたから悲しみが生まれます。送り出した 5000 人以上の生徒は世界中で頑張っています。負の感情からは負の連鎖しか生まれません。ご自分が人生を掛けて頑張られた札幌聖心という学校。素晴らしさを認め、顔を上げしっかりと前を向いて、これから向かうべきことに皆で力を合わせ立ち向かいましょう。」

そして生徒たちの言葉。「学校がなくなっても札幌聖心は私の心の母校であり、聖心の教育は私の心の軸であり、札幌聖心での思い出はずっと心に残っています。苦渋の決断であったと思いますが、私たち生徒はみな、ほんとうに大きな愛をここでいただきました。ありがとうございます。」教職員、修道院一同の歩みに光が差し込みました。

これらの光に導かれ、残るいのちを燃やして託された生徒たちのために尽くし、卒業生とご家族のために祈りつつ歩みたいと願います。



[チャプレン Sr.田口保子]